

# Briefing Transcription

|| 2026年12月期第2四半期 決算説明会文字起こし ||

## 日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

6063 東証スタンダード サービス業

[企業情報はこちら >>>](#)

[紹介動画はこちら >>>](#)

2026年10月6日 (火)



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

## ■ 目次

|                         |    |
|-------------------------|----|
| ■ 決算を受けてのFISCOアナリストコメント | 01 |
| ■ 出演者                   | 02 |
| ■ 決算説明                  | 03 |

## ■ 決算を受けてのFISCOアナリストコメント

- ・ 2026年12月期第2四半期業績は、売上高が前年同期比8.2%増の19.65億円、営業利益が同167.8%増の1.05億円、経常利益が同158.6%増の1.10億円、当期純利益が同80.8%増の0.78億円となった。医療アシスタンス事業における戦略的価格改定や新規受注や訪日客急増による需要を取り込み堅調に推移した格好である。同事業の売上高は前年同期比8.5%増の16.12億円、営業利益は同33.5%増の3.35億円と大幅な増益となった。

また通期業績予想進捗率をみると、売上高が49.1%、営業利益が52.5%、経常利益が55.2%、当期純利益が55.9%と各利益段階で進捗率50%超えと堅調に推移している。

- ・ 2026年12月期業績の会社予想は、売上高が前期比7.7%増の40.00億円、営業利益が同108.1%増の2.00億円、経常利益が同93.1%増の2.00億円、当期純利益が同37.4%増の1.40億円を見込む。2026年2月12日に公表した会社予想に変更はない。

業績拡大のけん引役は、引き続き医療アシスタンス事業となろう。下期も海外大手損保の新規受注、法人・大学向けサービスの価格改定、インバウンド向け緊急対応型アシスタンスやプロジェクトアシストといった各施策を推進する。成長ドライバーと位置付ける訪日外国人向け緊急対応型医療アシスタンスが、訪日客の急増にともなう需要が堅調に推移しよう。

長期化する円安傾向など不確定要素はあるものの、EMIS (広域災害・救急医療情報システム) 事業などの官公庁入札案件が収益に寄与する見通し。

- ・ 同社は中期経営計画「EJ Next Vision 中期経営計画2025-2027」を公表している。最終年2027年12月期に売上高50.00億円、営業利益3.50億円、売上高営業利益率7%、ROE10%を達成するという計画である。以下のように同社を取り巻く市場環境は非常に良好であることから中期経営計画達成の見込みは高いと言えよう。

- (1) 海外渡航者数および訪日外国人数の推移は、2015年に日本人の海外渡航者数を訪日外国人数が上回り、10年後の2025年には約3倍にまで差が拡大。
- (2) 日本人の海外長期滞在者数および外国人の国内中長期在留者数をみると、日本人の海外長期滞在者数は低迷、外国人の日本における中長期在留者数は過去最高を更新し、4倍以上に差が拡大。
- (3) 日本人学生の海外留学生数および外国人留学生数では、日本人学生の海外留学生数は2018年をピーク、外国人留学生数は過去最高を更新し、3倍以上に差が拡大。

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社  
6063 東証スタンダード サービス業

2026年10月6日 (火)

## ■ 出演者

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社  
代表取締役社長

山本 秀樹様

## 決算説明



皆さん、こんにちは。日本エマージェンシーアシスタンス株式会社、代表取締役社長の山本秀樹でございます。本日は、当社の2026年12月期第2四半期決算説明をご視聴いただき、誠にありがとうございます。日頃より当社を応援してくださっている株主の皆様へ、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本日は、先日8月13日に公表いたしました2026年12月期第2四半期の決算内容についてご報告するとともに、今回新たに3つのグラフ資料を追加いたしましたので、そちらを用いてマクロ環境の変化と当社の成長戦略について、ご説明させていただきます。

### 2026年12月期第2四半期 決算概要

Emergency  
Assistance  
Japan

- ◆ 医療アシスタンス事業において、海外大手の新規受注や戦略的な価格改定が奏功し**増収増益を達成**
- ◆ 前年度同期比は順調に成長し、**通期業績予想に対し各利益項目で進捗率約50%を超え堅調に推移**

(単位: 百万円)

|       | 2025<br>2Q | 2026<br>2Q | 対前年同期<br>増減額 | 同左<br>増減率 | 通期業績予想<br>進捗率 |
|-------|------------|------------|--------------|-----------|---------------|
| 売上高   | 1,817      | 1,965      | 148          | 8.2%      | 49.1%         |
| 営業利益  | 39         | 105        | 65           | 167.8%    | 52.5%         |
| 経常利益  | 42         | 110        | 67           | 158.6%    | 55.2%         |
| 当期純利益 | 43         | 78         | 34           | 80.8%     | 55.9%         |

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

6

まずは、2026年12月期第2四半期の業績についてご報告いたします。当社は12月決算でございますので、この第2四半期は、本年1月から6月までの6か月間の実績を取りまとめた「中間決算」にあたります。結論から申し上げますと、この上半期は昨年同期と比較し、大幅な増収増益となり、通期の業績予想に対しても非常に順調な進捗となっております。

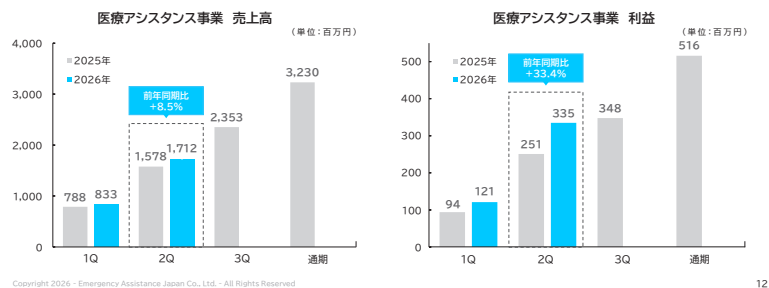
日本エマージェンシーアシスタンス株式会社 | 2026年10月6日 (火)  
6063 東証スタンダード サービス業

決算説明

当第2四半期累計の売上高は前年同期比8.2%増の19億6,500万円、営業利益は167.8%増の1億500万円と、約2.7倍に拡大いたしました。  
経常利益は158.6%増の1億1,000万円、親会社株主に帰属する中間純利益は80.8%増の7,800万円で、各利益項目において通期計画の5割超に達しております。

セグメント別業績 医療アシスタンス事業

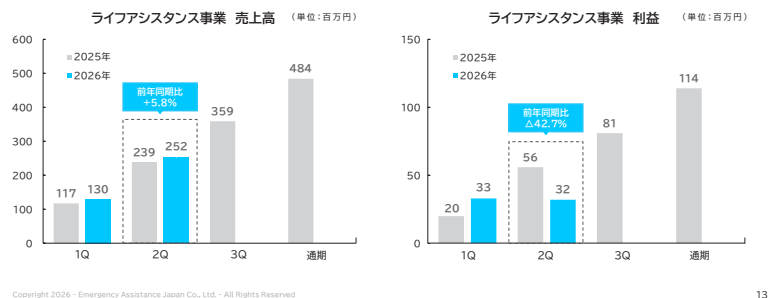
- ◆ 海外大手損保の新規受注、法人・大学向けサービスの価格改定、インバウンド向け緊急対応型アシスタンスやプロジェクトアシストと各施策が奏功
- ◆ 成長ドライバーと位置付ける訪日外国人向け緊急対応型医療アシスタンスが訪日客の急増に伴う需要を確実に捉え堅調に推移
- ◆ 下期は長期化する円安傾向など不確定要素はあるものの、EMIS事業等の官公庁入札案件が収益に寄与し通期達成を見込む



この業績を力強く牽引したのは、当社の主力である「医療アシスタンス事業」です。特に昨年末より海外大手損害保険会社様から、新たに海外旅行保険に付帯するアシスタンス業務を受託できたことや、当社と直接契約頂いている海外駐在員やその家族及び出張者を対象とした契約や留学生を対象とした大学向けサービスの契約料金を戦略的に見直したことが大きく寄与しました。この海外大手損害保険会社様からの新規受託は、当社がアジアおよび欧米の複数拠点で、24時間365日、日本語での対応が可能な体制を構築している点が、総合評価型の入札で最も高く評価された結果であり、今期は年初からしっかりと売上に寄与しております。また、法人や大学向けサービスの契約料金改定につきましても、コスト上昇をカバーする適正な改定でありながら、他社への移行はほとんど生じておらず、安定した収益基盤となっております。

セグメント別業績 ライフアシスタンス事業

- ◆ クレジットカード会員数増加に基づく既存取引先との契約見直しにより増収
- ◆ 品質向上やコストの最適化を目指して導入したGenesys Cloudに関わる一時的費用の発生などにより減益
- ◆ 今後は、構造改革として進めているデジタル化と顧客エンゲージメント強化を推進し、収益性向上と通期目標の達成を見込む



## 決算説明

2番目のセグメントである「ライフ・ノンメディカル事業」につきましては、委託元の大手クレジットカード会社様の会員数の増加に伴い売上高は増加したものの、利益面では一時的な減益となりました。これは大手クレジットカード会社のコンシェルジュ業務において、業界標準の厳しいセキュリティ基準が求められたため、AIの実装にも対応する新しい電話システムを導入したことによる一過性の費用です。このような高い基準の認証取得と設備投資に対応できる日本国内の事業者は限られており、当社にとってはオペレーションの効率化だけでなく、強力な他社との差別化と今後の新規案件受注獲得につながる前向きな戦略投資であるとご理解頂ければと存じます。

### セグメント別成長ポートフォリオ戦略

◆ 医療アシスタンスの安定成長、インバウンドの飛躍的成長、ライフ事業の構造改革により最適ポートフォリオを構築。高収益体質へシフト



※開示上の事業セグメントである「医療アシスタンス事業」を、「医療アシスタンス」と「インバウンド医療ツーリズム」の2つに区分して目標を設定しています  
また、「インバウンド医療ツーリズム」には、医療ツーリズム事業に加えて訪日外国人向け緊急対応型医療アシスタンス事業を含みます  
Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

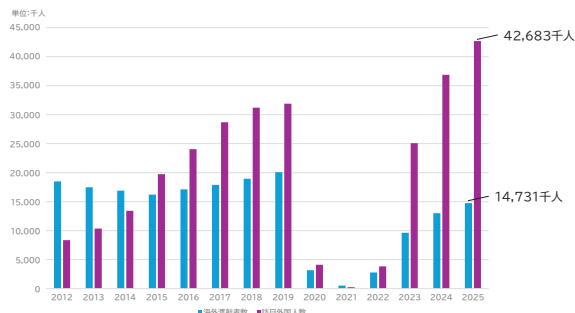
22

さて、ここからは今回新しく追加いたしました3つのグラフ資料をご覧いただきながら、当社のビジネスを取り巻くマクロ環境と、今後の方向性について説明いたします。

当社の創業以来の収益の柱は、損害保険会社様から委託頂いた海外旅行保険に関わる緊急病院手配・支払い保証等の医療アシスタンスサービス、そして法人や大学向けの医療アシスタンスサービスです。これらは「日本人の海外渡航」というアウトバウンドの動向に深く連動しています。一方で、今後の成長を牽引するのが「医療ツーリズム」や「訪日緊急医療アシスタンス」といった【インバウンド】分野です。

### 海外渡航者数および訪日外国人数の推移

◆ 2015年に日本人の海外渡航者数を訪日外国人数が上回り、10年後の2025年には約3倍にまで差が拡大



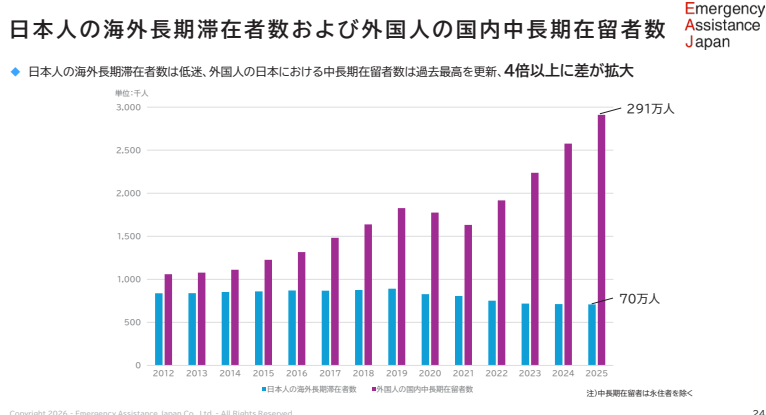
Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

23

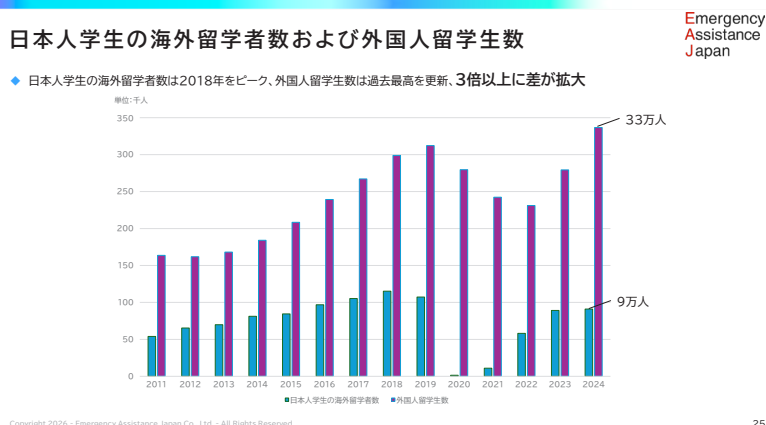
## 決算説明

今回追加したグラフは、この「日本から海外へというアウトバウンド」と「海外から日本へというインバウンド」の構造的なトレンドの変化を明確に示しています。

1つ目のグラフ「海外渡航者数および訪日外国人数の推移」をご覧ください。かつては日本人の海外渡航が安定的に推移していましたがコロナ後は2019年比で約3割減の水準にとどまっております。一方2015年には訪日外国人数が日本人の海外渡航者数を逆転いたしました。その後10年間でその差は急速に広がり、2025年の推計では、日本人の海外渡航者数が1,473万人強にとどまるのに対し、訪日外国人数は4,268万人強と、実に3倍以上の開きが生じています。



2つ目のグラフは「長期滞在者数・在留者数」のトレンドです。日本人の海外長期滞在者数は約70万人と伸び悩み・低迷傾向が続いていますが、一方、外国人の日本における中長期在留者数は過去最高を更新し291万人に達しており、約4倍以上の差へと拡大しています。



決算説明

3つ目のグラフ「留学生数」におきましても同様に日本人学生の海外留学者数は2018年をピークに減少傾向をたどり、現在は約9万人であるのに対し、外国人留学生数は過去最高の33万人を記録、アウトバウンドの3倍以上の規模となっています。

これらのインバウンドとアウトバウンドの動向には、急速な円安、世界各地における「地政学的リスクの緊迫化」、世界的な「インフレと現地物価の高騰」、さらには「航空機燃料高騰によるサーチャージの値上げ」など様々な外部要因が複雑に影響し、特に【アウトバウンド】におきましては、円ベースでの渡航コスト高や現地滞在費の負担増、安全面への懸念などがネガティブに作用。日本人渡航者数の伸びを抑圧する要因になっていると考えております。一方で【インバウンド】については歴史的な円安、訪日ビザ規制の緩和、日本文化の世界的な人気の高まり等から増加傾向は継続するものと考えております。今後もこれらのマクロ動向は、当社のビジネスに直接的な影響を及ぼす重要な外部環境として、注視していく必要があります。

2026年12月期の優先課題

Emergency  
Assistance  
Japan

- ◆ 2026年度は『EAJ Next Vision中期経営計画2025-2027』の核心フェーズ
- ◆ 既存事業の収益力を強化しつつ、成長分野にリソースを集中。ナレッジとテクノロジーを融合し、収益体質の改善を図る



Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

21

当社といたしましては、こうした外部環境の変動に単に振り回されるのではなく、中期経営計画で掲げた実行方策をひとつひとつ確実に推進・実行していくことで、収益構造の抜本的改革を進め、どのような外部環境の変化にも左右されにくい『筋肉質な経営体質』を構築してまいりたいと考えております。

そのうえで、当社の目指すべき方向性を整理すると、次の2点が極めて重要となります。

## 決算説明

### セグメント別成長ポートフォリオ戦略

Emergency  
Assistance  
Japan

◆ 医療アシスタンスの安定成長、インバウンドの飛躍的成長、ライフ事業の構造改革により最適ポートフォリオを構築。高収益体質へシフト

| 01                                                                                                        | 02                                                                                             | 03                                                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>医療アシスタンス</b><br><b>安定成長基盤</b><br>顧客層の拡大と<br>オペレーションDX化による効率化<br>2026年度目標<br>売上 3,200百万円<br>営業利益 160百万円 | <b>インバウンド<br/>医療ツーリズム</b><br><b>飛躍的成長</b><br>最大の成長ドライバー<br>2026年度目標<br>売上 300百万円<br>営業利益 15百万円 | <b>ライフ・ノンメディカル</b><br><b>構造改革</b><br>収益性重視の構造改革、<br>不採算案件の見直しとリソース集中<br>2026年度目標<br>売上 500百万円<br>営業利益 25百万円 |

※開示上の事業セグメントである「医療アシスタンス事業」を、「医療アシスタンス」と「インバウンド医療ツーリズム」の2つに区分して目標を設定しています  
また、「インバウンド医療ツーリズム」には、医療ツーリズム事業に加えて訪日外国人向け緊急対応型医療アシスタンス事業を含みます

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

22

第1に、当社のコアビジネスである【アウトバウンド】市場は、外部環境の影響もあり市場全体の劇的な伸びこそ期待しづらい局面ですが、長年つちかった高い信頼や質の高いオペレーションについて、必ずしも人が対応しなくてもよい部分についてはAI/DX化により効率化を推進。また昨今の危機管理意識の高まりを背景に、保険会社等の委託元及び法人クライアント等の顧客基盤の拡大。そして単価の適正化を推し進めることにより、強固な【安定成長基盤】として収益体制を確立することです。

第2に、急速な拡大を続ける【インバウンド】市場に対し、アウトバウンドでつちかった知見で新たなマーケットとしてリソースを投入していくことが重要だと考えております。

### 中期経営計画 業績目標

Emergency  
Assistance  
Japan

◆ 最終年2027年12月期には、売上高5,000百万円、営業利益350百万円、売上高営業利益率7%、ROE10%を目指す  
◆ 2026年12月期(当期)においても計画に対して堅調に進捗

|        | 中期経営計画期間          |                   |                   |                   |                   |                   |
|--------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
|        | 2024年12月期<br>(実績) | 2025年12月期<br>(計画) | 2025年12月期<br>(実績) | 2026年12月期<br>(計画) | 2027年12月期<br>(計画) | 最終年増加率<br>対2024年比 |
| 売上高    | 2,908             | 3,300             | 3,714             | 4,000             | 5,000             | 71.9%             |
| 営業利益   | 52                | 160               | 96                | 200               | 350               | 573.1%            |
| 営業利益率  | 1.8%              | 4.8%              | 2.6%              | 5.0%              | 7.0%              | +5.2pt            |
| ROE    | 2.8%              | 8.0%              | 5.6%              | 9.0%              | 10.0%             | +7.2pt            |
| 自己資本比率 | 46.1%             | 30%~40%           | 48.7%             | 30%~40%           |                   |                   |
| 配当性向   | 42.0%             | 20%~30%           | 22.3%             | 20%~30%           |                   |                   |

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

20

現在、当社は「EAJ Next Vision 中期経営計画2025-2027」の2年目という「核心フェーズ」にあります。最終年度の来年2027年12月期には「売上高50億円、営業利益3.5億円、ROE10%」という目標を掲げております。

決算説明



外部環境に左右されない筋肉質な経営を実現するため、大きく3つの柱で施策を進めています。既にホームページにも開示しておりますが、具体的な実行内容をご紹介します。



まずは「生成AIなどによる業務改革とDX化」です。具体的には、「ライフ・ノンメディカル事業」において、今年の7月よりコンタクトセンターにAIを搭載した最新のクラウドシステム「Genesys Cloud」を導入いたしました。前半の業績報告で触れました一時的な減益要因は、まさにこの将来に向けた戦略投資によるものです。このシステムにより、通話のリアルタイム文字起こしやAIによる回答サジェストが可能となり、業務効率と応対品質の飛躍的な向上を実現します。

決算説明

**01 医療アシスタンス**

**次世代型アプリ新「EAJ Members」をリリース予定**

- ◆ 海外渡航者の医療相談ニーズ拡大とオペレーション効率化を背景に、2026年12月、法人契約会員向け次世代型エマージェンシーアシスタンスアプリ新「EAJ Members」へのバージョンアップを予定
- ◆ AI・DX技術を活用し、お客様の利便性向上と対応品質の向上を図る

Emergency  
Assistance  
Japan

主な新機能

| <br><b>かんたん登録</b> | <br><b>現在地から医療機関検索</b> | <br><b>チャットで相談</b> | <br><b>AIによる対応品質の向上</b> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>電話での案内が必要だった各種登録（本人情報や既往症、保険証券の登録）をアプリで完結<br/>本人だけでなく帯同家族も利用可能</p>                              | <p>現在地情報をもとに近隣の医療機関が検索可能に<br/>受診に必要な情報を一覧で確認可能（※診療科目・言語対応・予防接種や健康診断の可否など）</p>                           | <p>従来は電話が中心であった問合せをアプリのチャットからも可能に<br/>過去の対応履歴も踏まえた迅速できめやかなサポートを実現</p>                               | <p>AI・OCRやチャット回答のサジェスト機能により、コーディネーターの対応スピードと対応品質の向上<br/>（将来的にAIボイスボット導入も検討予定）</p>                          |

当社が長年培ってきた医療アシスタンスの実務知見と最新のAI技術を融合し、  
 渡航中の急な体調不良や受診相談時に、より早く・簡単に必要な支援を受けることができる環境を提供

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

26

加えて、医療アシスタンス領域におきましても、今年12月には法人向け次世代型アプリ新「EAJ Members」のリリースを予定しています。このアプリは社内のリソースとAIによるコード生成を活用して自社開発しており、コストを抑えながらも、GPSによる現在地からの医療機関検索やチャットでの医療相談など、お客様の利便性を飛躍的に向上させるものとなります。

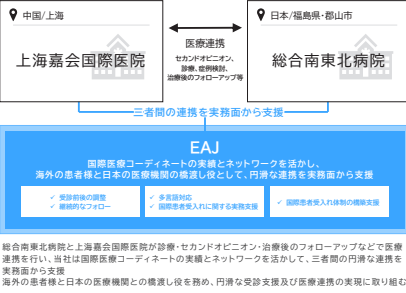
**02 インバウンド医療ツーリズム**

**日中医療連携でインバウンド事業を拡大**

- ◆ 総合南東北病院および上海嘉会国際医院とのMOU締結を通じ、海外患者と日本の医療機関をつなぐ国際医療ネットワークを拡大
- ◆ インバウンド事業のさらなる成長を目指す

Emergency  
Assistance  
Japan





総合南東北病院と上海嘉会国際医院が診療・セカンドオピニオン・治療後のフォローアップなどで医療連携を行い、当社は国際医療コーディネートの実績とネットワークを活かして、三者間の円滑な連携を業務面から支援  
 海外の患者様と日本の医療機関との橋渡し役を務め、円滑な受診支援及び医療連携の実現に取り組み

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

29

第二の柱は、先ほどご説明した「インバウンド事業の拡大」です。インバウンド医療ツーリズムにおきましては、福島県の総合南東北病院様、中国の上海嘉会（ジャーホイ）国際医院様と医療連携に関するMOU（覚書）を締結いたしました。私たちが実務面を支援し、海外の患者様と日本の高度医療機関の橋渡しを行うことで、巨大なインバウンド需要を確実に取り込んでまいります。

## 決算説明

01 医療アシスタンス
03 ライフ・ノンメディカル



### 厚生省・外務省の基幹事業を継続・再獲得し官公庁事業を拡大

◆ EMIS事業の継続受託や新規機能追加に加え、外国人診療相談窓口事業および外務省案件を新たに獲得し、官公庁事業を拡大

**厚生労働省**

**01 EMIS® サービス事業**

- 厚生労働省から、「令和8年度EMIS（広域災害・救急医療情報システム）サービス事業」を継続受託
- 全都道府県とのEMISサービス利用契約も継続受託

2026年4月～新機能実装・運用開始  
石油施設漏洩に起因する医療機能等の充足状況等調査機能を新たに実装し契約追加による売上増加を見込む

**厚生労働省**

**02 外国人診療に関する相談窓口事業**

- 厚生労働省から、外国人診療に関する相談窓口事業（ワンストップ相談窓口）を2026年4月から再獲得
- 大阪府、岐阜県高山市その他自治体の類似事業も獲得

**外務省**

**03 緊急電話対応業務**

- 外務省から「本省閉庁時緊急電話対応業務」及び「在外公館閉館時電話代行サービス業務」を受託

※ EMISとは、災害時に医療機関の被災状況や患者受入状況などをリアルタイムで共有し、迅速かつ適切な医療支援を実現するための情報システム

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

28

第三の柱は、「顧客基盤の積極的な拡大」です。官公庁からの受託事業も順調です。広域災害・救急医療情報システム(EMIS)は年間契約による安定した収益源ですが、プラットフォーム上に機能を追加できる強みがあり、今年4月からは新たに医療機材の在庫状況を把握する機能を追加契約として獲得しております。このように、既存のお客様に対しても付加価値を提供し、基盤を拡大しております。

### 中期経営計画 業績目標

◆ 最終年2027年12月期には、売上高5,000百万円、営業利益350百万円、売上高営業利益率7%、ROE10%を目指す

◆ 2026年12月期(当期)においても計画に対して堅調に進捗

(単位: 百万円)



|        | 中期経営計画期間          |                   |                   |                   |                   |                   |
|--------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
|        | 2024年12月期<br>(実績) | 2025年12月期<br>(計画) | 2025年12月期<br>(実績) | 2026年12月期<br>(計画) | 2027年12月期<br>(計画) | 最終年増加率<br>対2024年比 |
| 売上高    | 2,908             | 3,300             | 3,714             | 4,000             | 5,000             | 71.9%             |
| 営業利益   | 52                | 160               | 96                | 200               | 350               | 573.1%            |
| 営業利益率  | 1.8%              | 4.8%              | 2.6%              | 5.0%              | 7.0%              | +5.2pt            |
| ROE    | 2.8%              | 8.0%              | 5.6%              | 9.0%              | 10.0%             | +7.2pt            |
| 自己資本比率 | 46.1%             | 30%~40%           | 48.7%             | 30%~40%           |                   |                   |
| 配当性向   | 42.0%             | 20%~30%           | 22.3%             | 20%~30%           |                   |                   |

Copyright 2026 - Emergency Assistance Japan Co., Ltd. - All Rights Reserved

20

下半期につきましても、通期の連結業績予想は期初計画を据え置き、売上高40億円、営業利益2億円を見込んでおります。外部環境の不確定要素を注視しつつも、実行方策を着実に推進し、当社の強固な財務基盤、アウトバウンドの安定基盤、そしてインバウンドの成長エンジンの両輪を回すことで、目標達成に向けて前進したいと思っております。

また、株主の皆様への還元につきましては、配当性向20%から30%の範囲で、継続的かつ安定的な配当を行う方針です。前期の配当性向は約22%でしたが、引き続き業績の成長を皆様に還元できるよう努めてまいります。

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社  
6063 東証スタンダード サービス業

2026年10月6日 (火)

## 決算説明



私ども日本エマージェンシーアシスタンスは、為替や地政学リスクといった外部要因をしっかりと直視しながらも、計画した実行方策を力強く推進することで「筋肉質な経営体質」を作り上げ、「アウトバウンド」の確固たる土台と「インバウンド」の成長エンジンを活かして、次世代型アシスタンス企業へと進化してまいります。株主の皆様におかれましては、当社の描くビジネスの方向性と力強い成長ポテンシャルにご期待いただき、引き続き中長期的なご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

本日はご視聴いただき、誠にありがとうございました。

#### 重要事項 (ディスクレーマー)

株式会社フィスコ (以下「フィスコ」という) は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

#### ■お問い合わせ■

〒107-0062東京都港区南青山5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443 (IRコンサルティング事業本部)

メールアドレス：support@fisco.co.jp